

第3節 県内の地域構造（まとめ）

これまで、県内を6つの地区に分けて、県内各地域の現状や地域間の結びつきなどを様々なデータをもとに分析してきました。各地区の地域構造のポイントを整理すると下表のようになりますが、各地区によって、人口動向や産業構造などは大きく異なるとともに、地区を越えた広域的な結びつきなど、様々な特性が見られます。

今後の「あいちビジョン2020」の推進にあたっては、このレポートで分析した県内の地域構造を踏まえつつ、また、「地方創生」の取組とも連動しながら、広域的な視点のもと、効果的に施策を展開していくことが必要となります。

【県内の地域構造の分析結果（まとめ）】

地区	地区の特徴・課題や地区間の結びつきなど
名古屋	<ul style="list-style-type: none"> ・本県はもとより、中部圏の中核都市として、通勤・通学・商業など幅広い面において高い求心力を持つ地区であり、尾張地域の全地区のほか、刈谷市、みよし市など西三河西部とのつながりが強くなっている。 ・名駅地区の商業・業務機能の集積や大学の都心回帰が進んでいることに加え、名古屋都心を中心とした放射状の交通網の整備（名古屋市営地下鉄桜通線、あおなみ線、東部丘陵線（リニモ）、ガイドウェイバス志段味線、名古屋高速道路など）が進み、名古屋都心の影響エリアが拡大している。 ・更に、2027年度のリニア中央新幹線の開業により、名古屋都心の求心力は一層高まっていくことが予想される。 ・当地区は、人口の転入超過が続いており、人口は増加しているが、出生率が県平均を下回る中で、人口は自然減に転じており、今後、急速に進む高齢化への対応が課題となっている。
尾張北東部	<ul style="list-style-type: none"> ・通勤・通学・商業など幅広い面において、名古屋市とのつながりが強くなっているが、小牧市や春日井市を中心とする北部地域と、長久手市や日進市などの東部地域とは性格が異なる。 ・北部地域は、工作機械や航空機など、モノづくり産業の集積があり、通勤や業務面で小牧市に拠点性が見られる。一方で、高蔵寺ニュータウンなど、高度成長期に開発された大規模住宅団地を抱えており、こうした地域では高齢化が急速に進んでいる。 ・東部地域は、近年、住宅開発が進み、東部丘陵線（リニモ）の整備などに伴い、名古屋方面だけでなく、豊田市など西三河方面からも人口流入が進むなど、名古屋・西三河のベッドタウンとして、県内では最も人口が増加している。また、多くの大学が立地しており、通学面での人口流入も多い。
尾張中西部・海部	<ul style="list-style-type: none"> ・一宮市を中心とする尾張中西部地域は、繊維産業とともに古くから発展してきたが、近年は、名古屋市のベッドタウンとしての性格が強くなっており、通勤・通学面を中心に名古屋市とのつながりが強くなっている。 ・南部の海部地域は、津島市に拠点性が見られるが、通勤・通学・商業などの面で名古屋市とのつながりが強くなっている。 ・北名古屋市、豊山町、大治町など名古屋市に隣接している地域では、住宅開発が進み、人口増加が続いているが、地区全体としては、地場産業の発展に伴い流入してきた世代が高齢期を迎えていることなどから、県に先行して高齢化が進んでいる。

地区	地区の特徴・課題や地区間の結びつきなど
知多	<ul style="list-style-type: none"> ・半島地域という地理的要因もあり、観光や行政面などで高い一体性を有する地区であるが、名古屋市に近接している北部地域と半島先端の南部地域では性格が異なる。 ・北部地域は、臨海部を中心に厚い産業集積があり、通勤や業務面で名古屋市や刈谷市など西三河西部とのつながりが見られる。また、名古屋市のベッドタウンとしての側面も強く、高い出生率とともに、人口増加が続いている。 ・南部地域は、地理的条件、交通条件などの問題から、人口流出が続いており、人口減少・高齢化が進んでいる。 ・地区の中では、半田市が、特に南部地域にとっての通勤・通学・商業など幅広い面で拠点的な役割を担っているが、中部国際空港の開港や空港対岸部における商業機能の集積により、近年、空港周辺地域の広域的な交流拠点性が高まっている。
西三河	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車を中心とした我が国屈指のモノづくりの拠点であり、豊田市・岡崎市を中心に産業面における高い一体性を持っている。 ・強い産業力を背景に、通勤や業務面を中心に、カバーするエリアは地区外に広がっており、特に、東部丘陵線（リニモ）や名鉄豊田線で結ばれる長久手市・日進市などや、衣浦港の後背地である豊明市・大府市などの尾張地域とのつながりが見られる。一方、刈谷市やみよし市など地区西部は、通勤・通学・商業面などで名古屋市とのつながりも強い。 ・強い産業力を背景に、男性を中心とした若い世代が継続的に流入しており、人口構造が若く、また、出生率も高いことから、エリア全体としては、人口増加が続いているが、山間地域や沿岸部等では高齢化や過疎化が進んでいる。
東三河	<ul style="list-style-type: none"> ・豊川流域圏として、社会的・経済的に高い一体性を有する。一方で隣接する西三河とのつながりはそれほど強くない。 ・製造業に加え、我が国屈指の農業地帯を有するなど、バランスの良い産業構造を有しているが、求心力の強い名古屋市をはじめとした尾張地域や西三河地域への人口流出が続いており、県内では先行して人口減少・高齢化が進んでいる。特に山間地域は、集落機能の維持が困難な地域もあるなど、深刻な状況にある。 ・地区全体で見ると、豊橋市が通勤・通学・商業など幅広い面で拠点的な役割を担っているが、北設楽郡や新城市などの山間部は、国道151号で結ばれる豊川市とのつながりも強くなっている。 ・静岡県西部の遠州地域や長野県南部の南信地域とは、歴史的につながりが強く、新東名高速道路や三遠南信自動車道の整備とともに、更に交流が広がっていくことが見込まれる。

【県内6地区の基礎データ】

	総人口 (2015年) (千人)	人口増減率 (2010年→ 2015年) (%)	出生率 (2008年 ～2012年)	高齢化率 (2014年) (%)	昼夜間 人口比率 (2010年)	一人当 たり市町村 民所得 (2012年) (万円)	顧客吸引 力指数 (2014年)	人口10万 人あたり 医師数 (人)
愛知県	7,484	1.0	1.51	23.0	101.5	358	—	213.9
名古屋	2,296	1.4	1.35	23.4	113.5	339	1.32	307.8
尾張北東部	1,201	0.7	1.52	23.5	94.3	325	0.81	245.1
尾張中西部・海部	1,013	0.5	1.51	24.7	89.6	309	0.85	147.1
知多	621	1.0	1.59	23.0	93.9	342	0.79	140.2
西三河	1,595	1.9	1.67	20.2	102.2	428	0.90	146.6
東三河	758	-1.0	1.57	25.0	97.4	337	0.90	172.2

【県内6地区の域内総生産額（名目）・構成比】

	域内総生産 (億円)	産業別構成比 (%)								
		農林水 産業	製造業	建設業	電気・ ガス・ 水道業	卸売・ 小売業	金融・ 保険業	不動産 業	運輸・ 通信業	サービ ス業
愛知県	354,475	0.5	36.5	5.2	1.9	14.3	3.1	12.0	5.3	17.1
名古屋	123,193	0.0	8.5	5.0	1.4	26.8	5.6	12.3	18.4	22.0
尾張北東部	40,817	0.2	33.7	5.8	1.8	13.4	2.2	13.4	8.7	20.7
尾張中西部・海部	31,557	0.6	31.1	6.8	1.7	14.1	3.3	14.1	9.2	19.1
知多	26,511	1.0	45.2	5.9	2.1	9.5	2.2	10.3	7.7	16.0
西三河	100,328	0.4	64.0	3.4	1.0	7.4	1.9	7.0	3.6	11.3
東三河	32,355	2.5	46.4	5.7	2.2	11.3	2.5	9.3	5.0	15.1